

日立市の気候の概要

日立市は太平洋岸気候区に属し、四季の移り変わりがはっきりとしていて、冬は晴天が続いて乾燥し梅雨期と秋霖期に雨量が多くなります。年平均気温の平年値は14.5℃で全国平均(15.1℃)よりはやや低く、年間降水量の平年値も1398.1mmと全国平均(1736.2mm)と比べ338.1mm少なくなっています。

図1. 平均気温と降水量の月変化

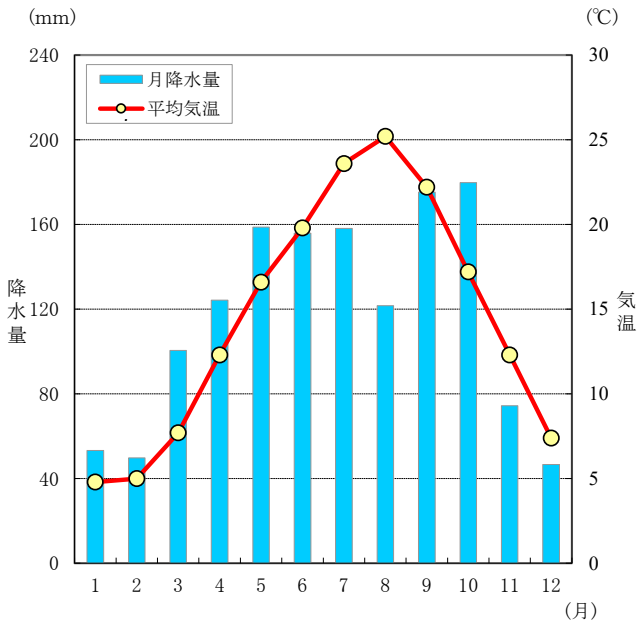
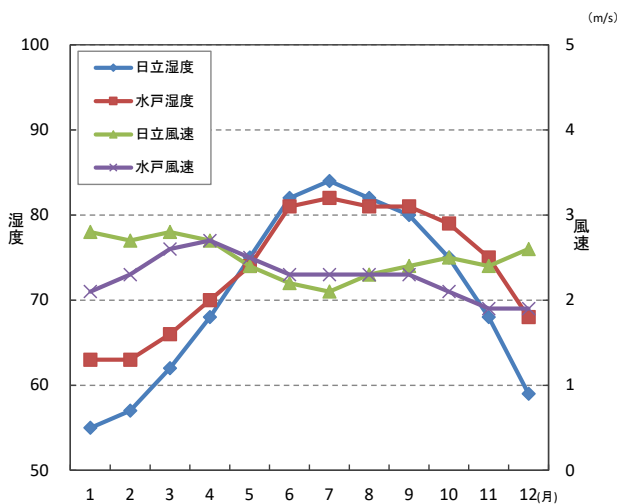


図2. 平均湿度と平均風速の月変化の比較



また、東側が太平洋に面し市街地の西側に多賀山地があるため、沿岸部では海洋性の気候の特徴が強く、西側の山間部では内陸性の気候の特徴を示します。さらに、市街地の西側に山があることは、気候の変化に特色をもたらしています。

そのひとつとして、風向は年間を通すと北北東の風が多くなります。しかし、冬季は冬型の気圧配置の影響で北西の季節風が多くなり、風も強く吹きます。そして、西側の山地によるフェーン現象が起こるため、湿度が低くなります。逆に気温はあまり下がらず、茨城県内の平野部の地域と比べると特異的な気候変化を示します。

この結果、茨城県の中央部にある水戸市と比べると、秋から冬にかけてやや気温が高くより乾燥した気候になります。(図-2、3参照)

図3. 年間風向の頻度分布

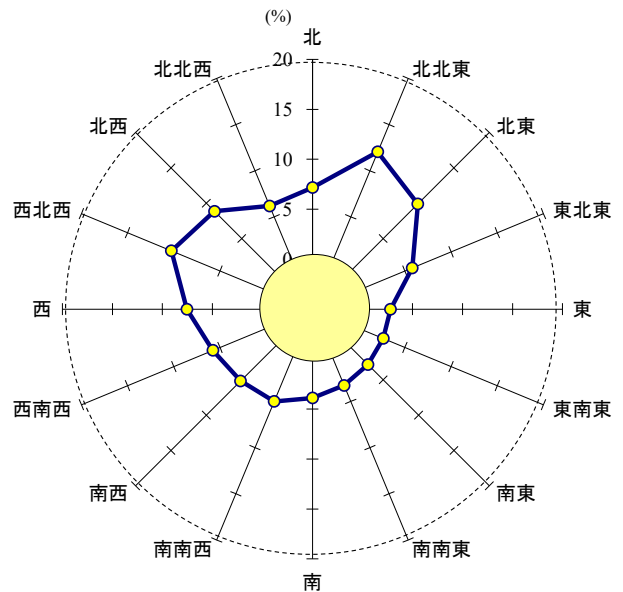
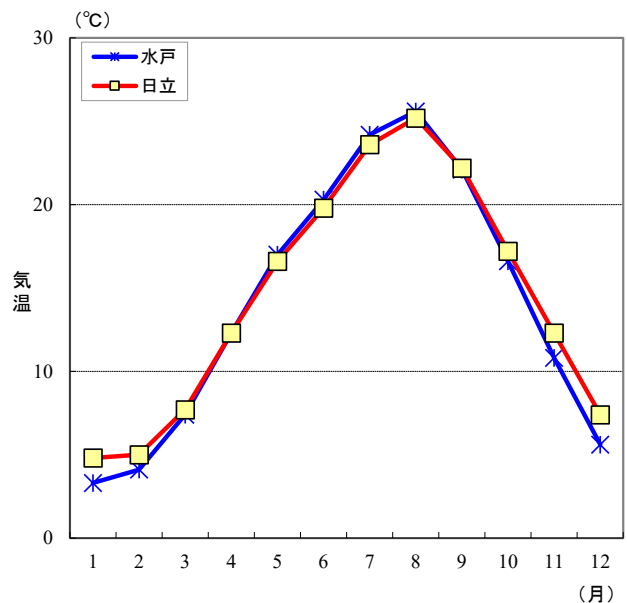


図4. 平均気温の月変化の比較



※図1~4のデータは、いずれも1991年~2020年の平均